

研究・調査報告書

報告書番号	担当
37	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and colorectal cancer risk: findings from the JACC Study アルコール飲用量と大腸・直腸がんのリスク：JACC 研究の結果より	
執筆者	
Sakata K, Hoshiyama Y, Morioka S, Hashimoto T, Kakeshita T, Tamakoshi A; JACC Study Group	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Epidemiol 2005;15:S173-S179.	
キーワード	
飲酒、大腸新生物、直腸新生物、コホート研究	
<p>要 旨</p> <p>日本の 45 地区から集められた、年齢 40-79 歳の男性 23,708 人、女性 34,028 人を追跡したコホート共同研究である。今回の平均追跡年は、7.6 年であった。追跡期間中、418 名の大腸がん発症例、211 例の直腸がん発症例があった。</p> <p>男性の禁酒者および現在飲酒習慣のあるものでは、約 2 倍の大腸がん発症危険度があった。これは、他の危険因子を調整しても大きな変化はなかった。しかし、量・反応関係は認められなかった。女性の禁酒者においてもリスクの上昇は認められたが、有意ではなかった。</p> <p>直腸がん発症リスクは、少量飲酒者でリスクが低い傾向があったが、有意ではなかった。</p> <p>以上の結果より、大腸がんの発症にアルコール飲用が関連し、アルコール量の増加も大腸がん発症増加要因の一つであると考えられ、対策上考慮されるべきと考えられる。</p>	